

1 全体研究主題

『 個別の指導計画・教育支援計画を生かした授業の在り方 』

2 全体研究主題設定の理由

(1) 本校の特徴および児童生徒の実態

本校は、寄宿舎を併設している知肢併置の特別支援学校であり、県内各地の児童生徒が在籍している。近年の児童生徒の実態は、障害が重度・重複化、多様化している。特に、小学部・中学部においては、知的障害と肢体不自由を併せ有する重複障害の児童生徒が増加傾向にあり、医療的ケアの必要な児童生徒も増えている。また、高等部においては、発達障害のある生徒や心理的ケアが必要な生徒が増え、多様な指導・支援を必要とする現状がある。

(2) 教育情勢

近年の社会の変化や障害の重度・重複化、多様化等を踏まえて、学校教育法が平成18年6月に改正され、平成19年4月から「特殊教育」は「特別支援教育」へ制度の転換が行われた。特別支援教育の本格的な実施により、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が更に重要となってきた。一方、本校においても、近年、在籍する児童生徒の障害の多様化、重度・重複化に伴い、教育的ニーズが多様化してきている。また、平成28年度より「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、合理的配慮の提供が義務付けられており、個別の教育支援計画及び指導計画につなげる取組を進めると同時に、多様化した教育的ニーズに応えられるような専門性の向上や学校生活における日々の授業を、より充実させていくことが求められている。

(3) これまでの研究のあゆみ

本校のこれまでの研究の取組に目を向けてみると、系統性をもって指導することの大切さに着目し、平成24・25年度は小中高縦割りによる系統性のある教育課程の編成を目指し、全体指導計画の作成に取り組んだ。個別の指導計画と全体指導計画の関連を明らかにして、日々の授業、具体的な指導・支援に結び付けていくことが今後の課題となった。

平成26年度は、各学部の授業づくりをPDCAサイクルの各過程から見直し、平成27年度は、前年度の取組を継続しながら、より課題を焦点化し、授業の評価・改善に視点を当てて研究を深めてきた。これらの取組を通して、一人一人の教育的ニーズに応えられる授業へとつなげることができた。一方で、毎時間の授業づくりのPDCAサイクルを、単元・題材等、学校における教育活動全体のPDCAサイクルへとつなげる取組や、一人一人の子供たちの変容を1時間→単元→学期→年間というスパンで評価するための個別の指導計画を授業に生かす取組等が今後の課題となった。

3 研究のねらい

- (1) 個別の教育支援計画や個別の指導計画が、日々の授業に生かされるための課題を整理して共通理解を図ったり、全体指導計画や日々の授業とのつながりを考慮した授業の実践・改善を行ったりする。
- (2) 「合理的配慮」を踏まえた個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成について検討する中で、書き方や活用面での改善を図る。
- (3) 学校との連携を図りながら、生活の力を付け、社会性の向上を目指した指導・支援の在り方を研究する。(寄宿舎)

4 研究の内容・方法

(1) 研究の進め方

全体研究主題に基づき、授業及び指導の中心となる各学部、寄宿舎を基礎単位として研修を行った。さらに、各学部では、学年部や学習グループなどの授業形態を考慮して、研修グループを編成し、寄宿舎では、居住スペース(コーナー)ごとに研修に取り組んだ。

また、実践研究に取り組むに当たり、県教育庁義務教育課特別支援教育室から講師を招聘し、合理的配慮や、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を生かした授業づくりの基本的な考え方について研修を行い、教員間の共通理解を図った。

平成28年度 【Ⅰ期】	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">全体研修</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度から始める研究の方向性の確認 ・ 「合理的配慮」に関する理論研修及び共通理解 ・ 個別の指導計画や個別の教育支援計画作成についての研修 ・ 課題の整理や共通理解, グループの確認
【Ⅱ期】	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">各部(グループ別)研修</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の授業に生かしていくための課題確認 → 具体的な研究方法の検討・立案 → 個別の指導計画を生かした実践① ・ 反省及び改善, まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">全体研修</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の研究のまとめ(中間報告)及び来年度の研修の方向性の確認
平成29年度 【Ⅲ期】	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">全体研修</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 28年度研究の成果と課題を踏まえた29年度研究の方向性の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">各部(グループ別)研修</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 28年度の研究実践の成果, 改善点を踏まえた研究方法の確認 → 個別の指導計画を生かした実践② ・ 反省及びまとめ
【Ⅳ期】	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">全体研修</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究のまとめ(実践報告会) ・ 次年度以降の研究について ・ 実践報告集「ひびき」の作成

(2) 研修計画

【平成28年度】

月	日	曜日	主な研修内容	
5	31	火	研修①(全体)	・本年度のテーマ研究について
6	20	月	研修②(全体)	・理論研修「合理的配慮に関する研修」 講師：県教育庁義務教育課特別支援教育室主任指導主事 大山 直美 先生
7	6	水	研修③(全体)	・各部の研究の進め方について（報告）（全体後→各部で）
9	14	水	研修④(各部)	・各部（グループ別）研修①
10	11	火	研修⑤(各部)	・各部（グループ別）研修②
11	9	水	研修⑥(各部)	・各部（グループ別）研修③
12	5	月	研修⑦(各部)	・各部（グループ別）研修④
1	13	金	研修⑧(各部)	・各部（グループ別）研修⑤
2	14	火	研修⑨(各部)	・各部（グループ別）研修⑥ 研究のまとめ
3	3	金	研修⑩(全体)	・研修報告会

【平成29年度】

月	日	曜日	主な研修内容	
5	10	水	研修①(全体・各部)	・本年度のテーマ研究について(全体研究, 各部研究) ・各部(グループ別)研修①～③ ・参観授業及び授業研究会の研修(講師を依頼)
	31	水	研修②(各部)	
6	16	金	研修③(各部)	
7	4	火	研修④(各部)	
9	5	火	研修⑤(全体)	・公開授業研究会に向けた最終確認
	15	金	公開授業	「鹿児島県特別支援学校授業力向上プログラム」における公開授業研究会
10	17	火	研修⑥(各部)	・各部（グループ別）研修④
11	1	水	研修⑦(各部)	・各部（グループ別）研修⑤
12	6	水	研修⑧(各部)	・各部（グループ別）研修⑥
1	12	金	研修⑨(各部)	・各部（グループ別）研修⑦ 各部研究のまとめ
2	9	金	研修⑩(全体)	・各部研修⑧
3	2	金	研修⑪(全体)	・研修報告会 ・実践報告集『ひびき』発行

(3) 各学部・寄宿舍の研究主題及び研究内容

小学部	研究主題	<p>【平成28年度】 「個別の指導計画を生かした指導方法の検討と実際」</p> <p>【平成29年度】 「個別の指導計画を生かした授業づくり～目標や手立ての共有化を目指して～」</p>
	研究内容	<ul style="list-style-type: none"> 研究グループの編成と各グループの課題点の検討 授業実践を通じた課題解決と授業研究 改訂版個別の指導計画の作成と活用，有効性の検討 「授業づくりの日」を生かした授業設計及び目標・手立ての共有化
中学部	研究主題	<p>【平成28・29年度】 「個別の指導計画を活用した，具体的手立ての見える指導・支援の在り方」</p>
	研究内容	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別や課題別のグループでの担任と教科担当者による，生徒一人一人の目標や学習内容の検討 授業実践（事例検討，教材・教具や指導・支援の改善策の共有）による指導計画の見直し，授業改善及び評価 次年度の教育課程の改善及び検討
高等部	研究主題	<p>【平成28年度】 「生徒一人一人のよさや課題を共有して行う授業づくりの在り方①～個別の教育支援計画等を活用した目標設定及び支援の在り方を中心に～」</p> <p>【平成29年度】 「生徒一人一人のよさや課題を共有して行う授業づくりの在り方②～『身に付けてほしいカシート』を活用した授業づくり～」</p>
	研究内容	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画等による生徒一人一人の実態や課題の共有に基づく，適切な目標設定及び指導の在り方の検討及び授業実践 「身に付けてほしいカシート」（高13ページ，資料1）等を活用した授業づくり 授業ミーティングや授業研究会による授業改善及び評価
寄宿舍	研究主題	<p>【平成28・29年度】 「一人一人の豊かな生活をめざした寄宿舍～『生きる力』を育てる～」</p>
	研究内容	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後を見据えたより良い人間関係の構築をねらいとした，「挨拶」，「衛生面」，「コミュニケーション」，「マナー」に関する指導内容・方法の検討と実践 自己肯定感を育てるための方法の検討と実践 個別の教育支援計画を活用した，担任との連携に基づく指導

5 研究の経過

「個別の指導計画・教育支援計画を生かした授業の在り方」を研究主題として、個別の指導計画や教育支援計画を生かしながら日々の授業づくりや寄宿舎での指導を行うことができるよう、全校体制で実践研究に取り組んだ。

一年次には、個別の指導計画や教育支援計画を授業や寄宿舎での指導につなげるための課題を整理し、課題解決に向けて、具体的な取組を検討して実践を行った。

二年次には、一年次の研修内容を継続しながら、児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズに基づいて個別の指導計画に作成することをより意識し、授業ミーティングや授業研究会を通して、教員間で共通理解を図りながら授業実践を行うことができた。

【全体研修】

- ・ 研究の方向性や研究計画などの確認及び共通理解
- ・ 外部講師による、合理的配慮や個別の指導計画を生かした授業づくりに関する研修



【各学部の研修】

- ・ 個別の指導計画等を生かした授業づくり
- ・ 個別の指導計画等を生かした授業実践（Plan, Do）
- ・ 授業ミーティングや授業研究会を通じた授業の評価・改善（Check, Action）
- ・ 効果的・効率的な授業研究会の方法の検討及び実施

【寄宿舎の研修】

- ・ 寄宿舎での指導の在り方に関する課題分析
- ・ 個別の教育支援計画を活用した、担任との情報共有
- ・ 自己肯定感に関する職員研修の実施
- ・ 月目標を基にした指導内容の設定と効果的な指導方法の検討・実践（Plan, Do）
- ・ 指導方法の評価・改善（Check, Action）



【全体研修】

- ・ 研究成果の共有と課題の確認（研修報告会の実施）
- ・ 来年度以降の研究の方向性の検討
- ・ 実践報告集『ひびき』の作成

6 全体研究のまとめ

(1) 主な取組と成果

ア 外部講師による、個別の指導計画等の作成や授業づくりに関する理論研修

平成28年度の研究を始めるに当たり、県教育庁義務教育課特別支援教育室主任指導主事の大山直美先生に講師を依頼し、合理的配慮や教育的ニーズという観点から個別の指導計画を見直す必要性、実態把握の方法や指導目標設定の視点、全体指導計画と個別の指導計画、授業との関係などについて御指導をいただいた。このことにより、個別の指導計画における目標設定の在り方や、個別の指導計画を踏まえた上で授業づくりを行い、児童生徒の個人目標の達成につなげることの大切さをあらためて意識し、全教員で共通認識の下、研究を始めることができた。

また、平成29年には、学部ごとに県教育庁義務教育課特別支援教育室や県総合教育センター特別支援教育研修課などに指導助言を依頼し、継続して授業づくりについての具体的な助言をいただいた。これら外部講師による助言により、研究の方向性や方法について客観的に見直し、研究方法の修正や具体化、授業の評価・改善を行うことができた。

イ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の書式の見直し

平成28年度当初の外部講師による研修等を受け、合理的配慮についての意識が高まり、個別の教育支援計画に合理的配慮について具体的に記述できるよう、関係の係で様式の検討・改訂がなされた。このことにより、児童生徒一人一人の実態に応じた合理的配慮について明記し、合理的配慮を踏まえた日々の指導及び支援の在り方や授業での配慮事項等を考える際の情報として活用することができた。

ウ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を授業や寄宿舎での指導につなげるための課題の整理と方法の検討・実践

各学部・寄宿舎の研究を通して、個別の教育支援計画や個別の指導計画を授業や日々の指導に生かすための課題が明らかとなった。この課題を解決するため、各部で方法を検討し、実践を行った。

小学部では、個別の指導計画に個人目標を達成できるようにするための具体的な手立てを記述する欄を追加し(小12ページ・資料1, 15ページ・資料3, 18ページ・資料5)、中学部では、独自に作成・活用していた「題材指導計画」(中13ページ)に個人目標と手立ての欄を追加したことで、指導内容や指導場面、手立てを明確にして授業実践を行い、個別の指導計画の内容を授業につなげることができた。高等部では、個別の指導計画の個人目標及び評価を授業担当者が記入するため、適切な個人目標設定のための情報を担任から得る一つの方法として、作業学習を対象に、担任から授業担当者に重点目標や指導上の配慮事項を引き継ぐシートを作成・活用し、個別の指導計画の作成や授業での指導に生かすことができた(高13ページ・資料1)。

また、寄宿舎で生活する児童生徒の実態や本人・保護者のニーズ、担任の願いなどを把握して指導に生かすため、個別の教育支援計画を活用して担任と情報交換を行い、寄宿舎生活での指導に生かすことができた。

エ 授業ミーティング等による、チームで取り組む授業づくり

授業づくりや寄宿舎での指導方法の検討を行うに当たり、個別の教育支援計画や個別の指導計画、学部独自に開発した「題材指導計画」（中学部）、「身に付けてほしいカシート」（高等部）などを活用しながら、学年部や授業担当者、寄宿舎の生活コーナー担当者などのグループでミーティングを重ね、目標の妥当性や指導内容、指導方法を検討しながら、指導に取り組んだ。ミーティングの時間を確保することは難しかったが、「教材研究の日」や研修の時間などを活用し、資料を事前準備するなどの工夫し、限られた時間を使って、児童生徒の情報を共有したり、アイデア出し合って指導計画を検討したりして、教員間で共通理解の下、指導を行うことができた。

このようなミーティングを通して、チームティーチングで行う授業で、授業のねらいを共有し、児童生徒の個人目標を把握した上で、教員一人一人が授業での自分の役割や個に応じた具体的な指導の手立てを明確にして指導を行い、チームで協同して授業を展開することができた。

オ 効果的・効率的な授業研究会の在り方の検討と授業の評価・改善

授業の評価・改善を適切に行うため、研究授業及び授業研究会を計画的に実施し、授業担当者以外の教員の多様な意見も取り入れることができるようにより取り組んだ。その際に、従来の質疑応答型の授業研究会における課題として、意見が出にくく、経験年数の多い教員の意見に偏ることがあることや、質問に対して授業者が答えるという形式では授業者への心理的な負担が大きく、授業研究を積極的に実施しようという意欲が低下する傾向がみられることが課題として挙げられた。

そのため、限られた時間でも有効な意見が多数出されるよう、授業参観をしながらメモをとり、授業研究会ではメモの内容を基に、意見を付せんに書いて発表できるよう、全員参加型のワークショップ方式の授業研究会を実施した。

このワークショップ方式の授業研究会（全体9ページ、資料1）により、45～50分程度の限られた時間内で参加者全員が意見を発表し、授業改善の具体的な方法を話し合ったり、改善策を共有して、次時の授業から改善点を実践するしたりすることができるようになった。

(2) 課題

ア 個別の教育支援計画・指導計画の様式の検討

2年間の研究を通して、個別の教育支援計画や個別の指導計画を授業に生かすための課題を明らかにし、授業との接続のために必要な方法を工夫しながら取り組んだ。授業に具体的に反映させるための取組は、一定の成果を挙げているが、個別の指導計画に手立ての欄を追加する必要性等の具体的な改善点もあげられた。小学部で試行的に新様式で作成し、検証を行った結果等を基に、関係の係と連携しながら様式について検討していきたい。その際に、同じような様式を複数作成するような重複がないように十分検討し、業務の効率化も視野に入れながら今後の方向性を探っていきたい。

イ 研究成果の活用と継続した取組

各学部・寄宿舎で研究を行った成果として、個別の指導計画を授業につなげるためのツール（アセスメントチェックリスト、「題材指導計画」や「身に付けてほしいカシート」など）や生徒の実態に応じた教材・教具の作成、指導方法の開発ができたことが挙げられる。この成果を次期の研究や今後の指導にどのように生かしていくかを検討し、今回中心的に取り組んだ教科等から、成果がみられたものについては、他の教科等での活用を広げるなどして、課題点を修正しながら活用するなど、継続した取組をしていきたい。

ウ 業務のスリム化による授業づくりに関する時間の確保

今回、授業ミーティングや授業研究会を実施する際に、時間の確保が課題となった。週1回を目安に設定されている「教材研究の日」や長期休業中に授業ミーティングを設定することが多く、会議等の精選や効率化などを教員一人一人が意識し、授業ミーティングや授業準備の時間に当てることができるよう、校務分掌の業務と授業準備に当てると時間のバランスをとることができるように工夫する必要があると考える。

エ 1単位時間や単元・題材単位の授業の評価から教科等の年間指導計画の見直しへ

今回の研究では、1単位時間の授業の評価を基に次時の授業を改善し、単元・題材単位の授業の評価・次年度に向けた改善点の整理を行った。この評価は、教育課程編成の際に、年間指導計画の見直しにもつながったが、新学習指導要領の改訂に伴い、今後は、あらためて各教科等の指導内容の見直しを行い、改訂の趣旨に沿った指導内容の精選、指導方法の検討を行う必要がある。

そのために、教育課程の編成につながるような評価方法の工夫や、指導方法の開発など、教員一人一人の意識を新たにしながら、今後の研究を継続・推進できるように取り組みたい。